

芸術科 音楽 I 創作「身の周りの環境音を使って音楽をつくろう」

今年度の音楽 I では、2学期に「身の周りの環境音を使って音楽をつくろう」という題材のもと、創作の授業を行った。

本題材では、生徒が身の周りの環境音に耳を澄ませ、そこに含まれる音色や質感、リズムを音楽の素材として捉え、創造的に表現する力を育成することを目的とした。ICT(ガレージバンド等の DAW ソフト)を活用した録音や編集の活動を通して、音を扱う技能を身に付けるとともに、「どの音を選び、どのように組み合わせるか」を考える過程で、思考力・判断力・表現力の向上を図った。

また、制作した作品を仲間と共有することで、多様な感じ方や価値観を尊重し合い、音楽を生活や社会と結びつけて捉える態度を育むことが出来た。さらに、1 学期に取り組んだボディーパーカッションの学習を土台とし、身体の音から環境の音へと対象を広げることで、音楽素材の多様性や、日常生活の中に音楽が存在していることへの気づきを促した。

導入では身の周りの音に耳を傾け、環境音に意識を向けるとともに、その音の雰囲気や特徴を4つに分類して捉えた。

おもて

『身の周りの環境音で音楽をつくろう』	()グループ
【めあて】身近な環境音に耳をすませ、「音楽の材料」として聴いてみよう	名前

① 身の周りの音に耳を澄ませよう

② 音を分類してみよう

・人が発した音 (Human) → [H]	・自然が発した音 (Nature) → [N]
・機械が発した音 (Technology) → [T]	・物から出た音 (Object) → [O]

ワークをやってみて気付いたことをタブレットで話し合おう
(例:Nのほうが多い...など)

自分	グループ・全員
教室内で、自然が発した音がほとんど"きれい"	人と物の複合的な音が多い、機械の音が少なかった

③ 教室内のお気に入りの環境音を録音しよう

あなたが録音した音はなんですか? 黒板にチョークで文字を書く音

この音の特徴とお気に入りの理由は何ですか?
特徴 → 高い音、音域でも黒板とチョークが思い浮かぶ
お気に入りの理由 → 黒板にチョークを当てたとき、文字を書いているとき、それとこれ2つの音が出るところ

振り返り
クラスルールのリンクからフォームに回答しましょう。毎授業の振り返りは成績に入るので必ず回答すること!

創作の手順

- ① 曲のテーマを決める。
- ② 8ビート・16ビートのリズムパターンを選択する。
- ③ リズムパターンの音をそれぞれ決めて録音する。
- ④ 音素材を集めて、曲の雰囲気に合うように貼り付ける。

うら

『身の周りの環境音で音楽をつくろう』	作曲の手順
--------------------	-------

① 8ビート

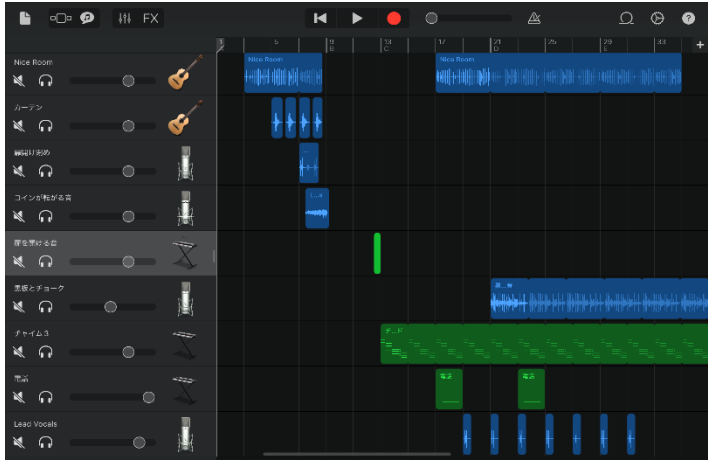
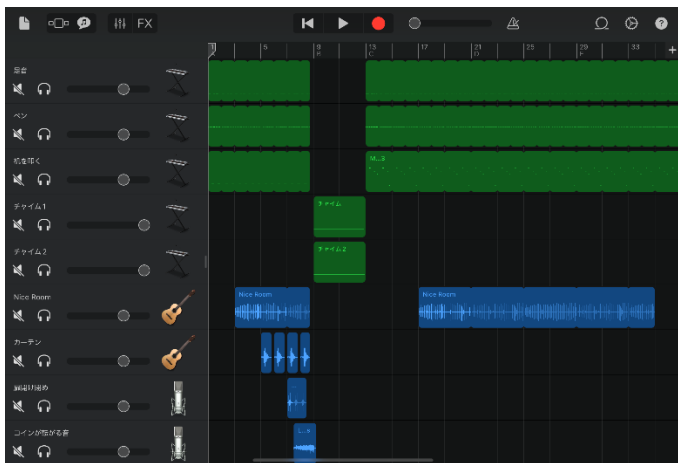
② 16ビート

① 8ビート

② 16ビート

③ 音素材を集めて貼り付ける

集めた音	学校のチャイム
	カーテンの開閉
	扉の開閉
	コインが落ちる音
	黒板にチョークで文字を書く音
	電音



作品発表でのワークシート

相互評価シート

/ 年

評価の観点	知識	技能		思考力・判断力・表現力
	音の選び方や使い方がよく考えられていて、曲のイメージとあっていた。	繰り返し(反復)、同じものを変えてみる(変化)、違いを付ける(対照)を上手に使っていた。		音の重なりや流れを考え、聞く人に伝わる表現になっていた。
曲のタイトル	●・○・△で評価しよう			一言感想
	知識	技能	思・判・表	
ラップの音源	○	○	○	サンプルの構成でラップらしいリズムとグルーブが表現できた。
テノロイ	◎	○	○	サンプルの使い方や音の選び方が巧みでいい感じだった。エフェクトもよく使った。
リズムとパールの仲間たち	◎	◎	◎	リズムとパールの組み合わせが上手で、聞きやすい曲だった。
陽気なPCL	○	○	○	陽気な感じの曲で、上手に表現されていた。
お花畑	○	○	○	POPの音に始まり、軽やかな曲の構成が印象的だった。
お花畑feat.やぽ	○	○	○	サンプルとエフェクトの使い方が上手で、聴きやすい曲だった。
雑巾ithat's音	◎	○	◎	雑巾の音を使った曲で、斬新な感じが印象的だった。
カビ形式風音楽	◎	◎	◎	カビの音を使った曲で、斬新な感じが印象的だった。
工場見学	◎	○	○	工場らしい音源や効果音の使い方が上手で、印象的だった。
音のバリエーション	○	○	○	リズムやパールの組み合わせが上手で、聴きやすい曲だった。
雑音五重奏	○	○	○	雑音の組み合わせが上手で、印象的だった。

自己評価シート

/ 年

評価の観点	知識	技能	思考力・判断力・表現力
	音の選び方や使い方がよく考えられていて、曲のイメージとあっていた。	繰り返し(反復)、同じものを変えてみる(変化)、違いを付ける(対照)を上手に使っていた。	音の重なりや流れを考え、聞く人に伝わる表現になっていた。
曲のタイトル	知識	技能	思考力・判断力・表現力
群	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
【作品のイメージや表現したいことは伝わりましたか?】		【他の作品を聴いて、次に生かしたいことは何ですか?】	
完成目標として「日常の雑音や工場をテーマにした曲」を表現するために音の選び方や音の組み合わせを考えた。雑音や工場をイメージした曲のイメージとあっていた。完成した曲は、他の曲とは違った。その最後の音は、聴きやすい曲に近いものを作ったと思う。タイトルは「群」にした。工場の音を上手に表現した曲は、聴きやすい曲だと思う。		曲の構成やリズムの組み合わせが上手で、印象的だった。他の曲とは違った。その最後の音は、聴きやすい曲に近いものを作ったと思う。タイトルは「群」にした。工場の音を上手に表現した曲は、聴きやすい曲だと思う。	
【作ってみて新しく分かったことや、気付いたことは何ですか?】		【次はどんな表現に挑戦してみたいですか?】	
普段聞いている音を集めて工場を表現の材料にした。今回の生活音を集めて曲を作った。その音源をうまく使って、新しい曲を作った。その音源をうまく使って、新しい曲を作った。		今回の生活音を集めて曲を作った。その音源をうまく使って、新しい曲を作った。その音源をうまく使って、新しい曲を作った。	

みました